

全学学類専門学群代表者会議 第二回本会議 議事内容報告

作成者：渡邊 闘也・行方 紗羅

【日時】 2017年5月17日（水）

【場所】 3A204

【出席】 全体 75 定足 38 出席 47 遅刻 6 早退 1

【資料確認】

配布資料一覧

- 17005 『議事次第』
 - 17006 『第一回本会議議事録』
- 《議題①に関する資料》
- 17007 『茶話会について』
 - 17008 『大括り入試に伴う制度の改革について』

以上

【会議内容】

今回の第二回本会議では以下の議題を扱った。

議題①：茶話会について

以上

《議題①・茶話会について》

議長・鈴見が説明を行った。

茶話会について説明する。17007 を開いてほしい。学長との茶話会のお知らせということだが、この時期に毎年行っているものである。今年は6月1日に開かれるが、主な目的としては、全代会の活動方針の報告である。学長や副学長をはじめとした大学の教職員の方々に今年度の全代会の活動方針を行う。また、教職員との交流の場ということで、第2部では第一エリア食堂で立食形式の懇親会をする。

本題に入るが、茶話会では次の方針を掲げる。「入試制度変更に係るクラス制度変更案の提示」ということで、入試制度が変わるに伴い、これの変更案を提示したいと考えている。入試制度変更の現状や今後の方針については17008を見てほしい。

茶話会ではこういうことを扱おうと考えており、今回は全代会全体での意思疎通の場と考えて開催した。質問や意見等あれば発言してほしい。なくなり次第終了する。

〈質疑応答〉

質問：学校側がクラス制度変更についていくつか案を出しているとのことだが、それはもうすでに情報は入ってきているのか、それとも茶話会で出されるのか、あるいは学生側には提示されないのか。(化学類1年・田辺)

回答：具体的に大学側がクラス編成について考えている案は3種類ある。1つ目は、推薦入試の合格者は学類が確定したまま入学し、一般入試の入学者とはクラス編成を完全に分けるという案。2つ目は、推薦入試の合格者を全クラスに一定数入れ、残りの枠を一般入試の合格者が機械的に振り分けられるという案。3つ目は、推薦入試も一般入試も関係なく、機械的にクラス分けをする案である。(議長・鈴見)

質問：この大括り入試になるのが、平成31年、2019年度からということだが、これからのクラス代表者会議及び全代会の構成について、これから2年間で話をまとめるということか。(知識情報・図書館学類1年・植田)

回答：まず、大学側からこの話が来たのが昨年度末。議長選でも発言したが、今年度中にほぼ決めるという認識である。(議長・鈴見)

質問：最新の情報によると、平成33年にセンター試験の入試が変わるときに、それと同時に制度変革すると聞いたが、どうなのか。(社会学類2年・秋田)

回答：正式に教育推進課から提示されたのが本日なので、資料に変更を加えることはできなかった。その情報に関しては、補足を副議長の石川にお願いする。(ここで補足)というわけで、今までは大学側がこの年度であるというのをもとに話を進めてきたので、一応資料はそのままになっているが、そうなるにしろ今から考え始めることは同じである。とりあえず茶話会ではこの資料で投げるということで考えていただきたい。あと2年猶予があるというだけなので、改革の提案については行っていくという認識である。(議長・鈴見)

補足：本日教育推進課に伺ったが、大括り入試によるクラス制度変更に関するタスクフォースを大学側が立ち上げるそうだ。このタスクフォースは主に教職員が参加しており、ここでクラス制度に関して議論がなされるということだった。議長団としては、こちらのほうにこれから意見をまとめてアプローチをしていくという形を取ります。あと、平成33年度4月入学からというのはここで聞いてきた。なので資料の訂正をお願いします。以上です。(副議長・石川)

質問：現時点で議長団がクラス制度をどうかえるのか具体案はあるのか。それとも、今ここで話し合ったことをベースに考えるのか。(社会学類1年・秋田)

回答：後者である。100%後者ではなく案を思い描いてる部分はあるが、重要なのは学生全体の意見だと思っているので、全代会構成員の意見、さらに、クラス代表者会議を通じての全学生の意見が必要な場所であると考えている。なので、本日出た話をクラス代表者会議に持って帰ってもらい、このような話が出ているということを共有してほしい。また、クラス制度やクラス代表者会議をどうしたいか、クラス代表者会議は必要であるか否かということ話し合ってきてほしい。結論として、思い描いている部分はあるが、クラス代表者会議や全学生の意見を聞いたうえで進めたいと考えているので、とりあえずは後者である。(議長・鈴見)

質問：入学したばかりでよくわからないところもあるが、1年次はフレッシュマンセミナー等でクラス単位の形が実際に見えるところであると認識しているが、2年次以降はクラスのまとまりというのはどのようにしていくのか。(人文学類1年・竹下)

回答：その点に関しても、結論から言うと最終決定はまだなされていない。案としては、17008にある教養課程が、今までのフレッシュマンセミナーであったりクラスセミナーであったりクラス単位で動いている単位。さらに、文系なら文系、理系なら理系の共通する部分での単位。情報や体育、英語などの必修単位。というのが、教養課程に含まれているようだ。1年次にはフレッシュマンセミナーなるものは当然受けるが、学類分けした2年次でどうするか等、大学側は決定していないようだ。(議長・鈴見)

質問：現状で、クラスというものがどう機能しているのか。(人文学類1年・竹下)

回答：学類、専門学群によって個人差はあるが、基本的にあまり使われていない。学年、学類によってはまだクラスで授業受けてるところもあるが、それぐらいである。
(議長・鈴見)

質問：クラス制度が変更して、1年生の間は教養課程を履修するということだが、人文学類は学類内のコース選択は3年生からとはなっているが、1年生のうちからどのコースに行くかというのを決めないとならず、3年次に行きたいコースに行くための授業を1年生のうちから取る必要がある。そうすると、教養課程を履修するといふときは、そこまで専門でないけど1年生から取らなくてはいけない単位を含めて、学群、学類といった大きな括りで考えるということか。(人文学類1年・刑部)

回答：その認識で大丈夫だ。専門基礎科目をどう扱っていくかっていうのも、今何も決ま
ってないみたいである。例えば今まで専門基礎科目にならなかった文やまで専門基
礎科目になるのか、逆に2年次以降はどうするのか、2年次以降は学類分けがされる
ので、推薦入試の入学者も授業が合同になるとして、そこの部分をどうするのか、
それらも議論されているのか把握していないが、まだ決まっていない。(議長・鈴見)

質問：大括り入試になって文系理系で大きく分かれるとして、このときの学生管理のため、
担任制度についてはどうなるのか？(応用理工学類1年・チェ)

回答：そこに関しても決まっていない。後で提案しようと思っているが、特に進路を迷っ
ている1年生が、2年次どこに行くかという進路を悩むときに、担任が専門的な部分
のアドバイスができなくなる。そこに関して、機械的に分けるのか、推薦は推薦で
分けるのかっていう部分まで含めて、担任についてまだ決まっていない。提案して
いきたいと考えている。(議長・鈴見)

質問：先ほど、履修に関しても我々が意見できるようなことを聞いたが、そこは大学側が
決めることではないのか。質問としては、我々でどこまで意見を伝えられるのか、
干渉できるのか。(比較文化学類1年・楊)

回答：もちろん、こちらの提案が100%通るわけではない。ただ、全代会というものは大学
が定めている公な学生組織であり、学生の意見を大学側に伝えるという点で確立さ
れたところなので、ある程度は受け入れてもらえる。(議長・鈴見)

質問：定員に関しては大学側から何か聞かされているか。(比較文化学類1年・楊)

回答：現状では学生に開示されていない。(議長・鈴見)

議長・鈴見が説明を行った。

時間が19:20となっており、資料では議題は19:20までとなっているが、まだ議論の必要
がある、何か意見があるという人がいれば挙手をお願いします。何人かいるので、19:30まで
は続けます。19:30以降に、意見が出てきた場合は、鈴見のslackに提案してほしい。

質問：資料に議長団は大括り入試の方針に従うとあるが、従う理由について何かあれば。
(生物学類1年・富田)

回答：全代会は筑波大生の学生生活をよりよくするため意見等あれば大学に伝えるための組織。なので、クラス制度に関しても同時に考えており、今年度も行うがクラス代表者会議の議長をはじめとした学生と実際にやり取りをし、意見をもらうという組織である。論点はクラス代表者会議を、全代会をどうするかであり入試制度自体に関しては踏み込むつもりはない。ただ、完全に切って切り離せるものではないので、考えるべきだという意見はあると思う。議長団の方針としては入試方法自体ではなくあくまでも入試方法変更に伴うクラス制度の変更等について考えようということになった。(議長・鈴見)

質問：クラス制度を変更した後の1クラスの人数について議長団で考えていることはあるか。(生物学類1年・猪瀬)

回答：考えていなかった。現状のクラスの人数は1クラス20名から30名くらいである。それが良いのか悪いのかという部分まで議論していなかったなので、これから議論していこうと思う。(議長・鈴見)

質問：クラス代表を選出してしまった後クラスとクラス代表との間でちゃんと繋がりがあ
るのかという点が非常に疑問である。例えば、1年次が教養課程になるのであればク
ラスの意味ももう一度問い直す必要があると思うし、教養課程が似ている大学では
自治はどうなっているのかの比較も必要になってくるのではないか。

(人文学類1年・竹下)

回答：その通りである。今回このクラス制度変更を挙げているのは、全代会の選出方法が
変わるからだけでなく、そこまで遡らなければいけないことだと思ったからだ。ク
ラス制度がどうあるべきか等これから考えていくことはまだまだあると思うので、
そこに関しても議長団や委員長だけでなく、構成員の意見が必要だと考えている。
良い意見だと思うので、これから検討していきたい。(議長・鈴見)

質問：春日エリアで学んでいる者として質問だが、大学側はいろんな学類というか文系や
理系で分けたクラスを、どここのエリアを学ぶ場所として考えているのか。春日エリ
アの者として、春日エリアから1年生がいなくなると、人が少なくなってしまうの
で気になる。(知識情報・図書館学類1年・四家)

回答：学類分け等をしたとしてどこで学ぶのかということですが、多分決まってないと思
いない。その点に関しては大学側に質問をしていなかったからである。それ以前に
現時点で文系/理系/文理共通と定めているのもどうかという意見が大学内で出てい

るので、もう少し後の議論になると思うが、そこに関しても議論する必要があるかもしれない。後々クラス代表者会議に持って帰ってもらうというのは先ほども話したが、その段階で春日エリアの意見として是非お願いしたい。周りから聞いて伝えてくれれば。(議長・鈴見)

議長・鈴見が説明を行った。

一応 19:30 になったが、現時点で質問等あれば挙手をお願いする。それでこの場合は締め切りたいと思う。

質問：質問と意見が1つずつある。大学側が総合科目等で調節するのではなく、いきなり入試制度を変えるということに至った理由をはっきりさせてもらいたいというのと、今の全大会の集め方として複数のクラスから計3名選出しているが、クラスの分け方によって文系は少なく理系は多いといったことが起こると思うので、その点に関しても留意してもらいたいという意見である。(生物資源学類1年・十川)

回答：なぜいきなり入試制度を変えようと思ったのかに関しては、学生の選択肢を幅広くするという点に関して、総合科目の調整では賄えないと判断したためである。文系と理系に偏りが出てしまうのではないかという意見に対しては、全大会の選出制度自体に問題があると考えているので、これを機に改変しようと考えている。これに関してはかなりの意見が出ると思うので、また、議長団だけでは決めれないと思うので、特別委員会かタスクフォースを立ち上げて動いていくつもりだ。(議長・鈴見)

質問：意見だが、現状全大会の制度として各学類・専門学群から3人ずつ集めていると思うが、教養課程を設けた場合は教養課程の1年生と学類・専門学群に所属している上級生の意見を吸い上げる2つの組織が必要になると思う。それに対しての人数比や全大会全体の人数変更についても考えなくてはいけないと思った。また、これは現状の問題点でもあると思うが、全大会構成員は1,2年生が多いが、今後は3,4年生も巻き込む制度が必要だと思う。(比較文化学類2年・三浦)

回答：まず1つ目、確かに1年生の教養課程での意見と学類分けされた意見は変わってくると思うが、それに対して2つの組織を作らないといけないという意見もあると思うが、私はそれをするとややこしいことになると思っているのでしたくない。考えていたのは、選出方法を2種類設ければ良いのではないかと思っている。(議長・鈴見)

質問：1年生のクラスから形成されるクラス代表者会議と、上級生の各学類・専門学群から形成される代表者会議のようなものから代表を出しつつ、全大会を構成するのかな

と思っていた。1年生の各クラスから1名ずつ出すとすると、なぜ上級生のクラスかは1人ずつ出さないのかという意見が出て問題になると思う。

(比較文化学類2年・三浦)

回答：その問題に関しては2つ目の意見に触れるが、確かに現状3年生は少しいますが、4年生は関与していない。この背景は選出制度がクラス代表者会議からということなので、クラス代表者会議に4年生まで残っていることはほとんどないことが挙げられる。そこに関しては今まであまり触れられてこなかったが、理想は3,4年生まで関わるべき組織だとは思う。だが、どうしても研究や就職活動があるので、理想が100%実現する保証はない。しかし、そういう意見もあるので、それも踏まえて今後考えていきたいと思う。(議長・鈴見)

議長・鈴見が説明を行った。

これで議題は終わりとする。続いて委員会報告に移る。

《委員会報告》

議長団：

会議の議題について準備を行った。茶話会についての資料や大学側とこの内容についてやり取りをしている。また、いくつかの組織に挨拶等をしに行った。

総務委員会：

今週の会議で今回の会議の資料の印刷等準備をした。1年間の仕事の分担をしました。資料に関して slack でいうのを忘れていたが、今後は資料の印刷は最小限にするので、欲しい人は各自で印してほしい。

学内行事委員会：

先週の MT で自己紹介と仕事の説明をした。また、学園祭実行委員会の予算の事前執行の紙の赤入れをした。

教育環境委員会：

顔合わせをしてそのあと仕事の確認をした。履修登録期間中の授業に関するの体系の改善に関して扱っていく。

生活環境委員会：

今週は会議を行わなかったが、初回ミーティングでは顔合わせと全体の流れや今後取り扱う議題の確認を行った。

調査委員会：

先週は生環と教育と MT を行った。流れの確認と、目安箱を図書間に設置するために生活課に許可をもらいに行った。

広報委員会：

Campus 宿舎祭特別号の制作をしている。金曜日に発行されるので、手にとっていただきたい。

その他諸連絡

総務委員会：

言い忘れていたが、現時点で委員会配属先が決まっていないという座長団の人はこの会議の後、太田まで来てほしい。

議長：

次回以降の予定について。

次回集まるのは茶話会なので、出欠のメールを出してほしい。大学側に出欠を提出するので、全員必ず出してください。また、6月7日に第一回意見聴取会を行う。